

■ ガバナー補佐挨拶 山本康昭第3分区 A ガバナー補佐

櫻木ガバナーの「原点を知り・考える」の地区行動目標でスタートした本年度も、間もなく閉じようとしています。

ガバナー補佐として就任以来、何かと戸惑うことの多かった1年でしたが、皆様の協力により何とか役目も終わることが出来そうです。

その間、担当幹事の今野会員始め、野口会長、特に藤崎幹事には全面的な協力とご指導を頂き、心より感謝申し上げます。

各種会合やセミナー、そしてクラブ訪問を通じて、地区内84クラブの様々な実態を改めて見直すことが出来、更に分区内の7クラブに、より身近に接することで、今までうかがい知れなかった各クラブの抱えている課題や問題点も把握することが出来ました。

改めて我々が西クラブの内容や活動の素晴らしさを実感することが出来ましたし、所属している意義の深さを皆様にも実感してもらいたいと思います。

ガバナーの解説で、現在までのロータリー活動の流れや総括が出来たと思っておりましたが、先般開催されたRIの規定審議会の決定では、更に大きな変革がなされ、かつての日本のロータリアンが想い描いてきたロータリーの姿と大きく様変わりするやもしれませんが、皆様にも今までの認識の上にどのような新たな動きが加わるのかを見定めて頂きたいと思っております。

先般開催されたソウル世界大会に出席して参りましたが、180を超える国と地域から4万人以上の参加で開催された世界大会のスケールに圧倒されましたし、ロータリー活動の奥の深さも実感して参りました。

役目柄、地区内・分区内に新たなロータリアンとの繋がりも持つことが出来ましたが、その繋がりや絆が今後のロータリーライフをより充実したものにするための最も大きな収穫であったと感じている毎日です。

もうすぐ新年度もスタートいたしますが、クラブの皆さん共々と協力し合い発展させてゆきたいと考えます。

本当にありがとうございました。



■ 一年を顧みて

プログラム委員長 西川 昇

本年度、プログラム委員会は委員長に私西川と副委員長に三上会員と兼任副委員長飯高会員、委員に小林PPのメンバーで年初に活動方針に沿って1年間活動して参りました。

今年度の野口会長が、「協力し合い、楽しもうクラブライフ！」協力し合い楽しむためには、個々の会員を理解し更にロータリークラブを理解することだと思っておりますので、このことを踏まえプログラムを企画いたします。

その活動内容の一番目として、会員個々を理解するためのプログラムという事でしたので、会員の個々の職業についての卓話をし頂く為に、職業奉仕委員会と協力し、会員の職業についての卓話して頂きました。

この会員の個々の職業についての卓話は、会員個々をより理解できる場として良かったのではないかと思います。

次にロータリークラブを理解して頂く為のプログラムとして、クラブフォーラムの回数を例年より多く行ないました。

特に今年は創立40周年の事業もあり、その為のフォーラムも行ないました。会員の皆様が真剣にフォーラムで意見を出し、40周年に向け準備をして開催に至り、大成功で幕を閉じることができました。

今年度は、会員の皆様が当クラブの歴史について勉強できた年ではないかと思います。

以上、プログラム委員会の活動報告をさせて頂きました。1年間御協力有難う御座いました。



広報情報委員長 松本 忍

広報情報委員長を半年担当しました松本でございます。

真野委員長から、引継ぎ6か月、短い間でながらもなかなか任務を全うすることができず、藤崎幹事長はじめ、海賓副委員長にほぼ支えていただき、米田委員、兼任の平良委員、山木委員、とともに、『協力し合い・楽しもうクラブライフ』基づき、広報委員として伝えられるよう心掛けては参りました。

【半年を振り返って】

1つ目、40周年記念行事では、まだ慣れていない中での貴重な写真撮影を引受け、ピントや背景・サイズなどが上手くいかず、其の節はご迷惑をおかけ致しました。

2つ目、親睦旅行・家族例会・通常例会等々での週報では、藤崎幹事長・海賓副委員長に文章編集をほぼ行っていただき、大変助かりましたことと、ご迷惑をお掛けしましたこと、この場をお借りしてお詫びし、感謝御礼申し上げます。

3つ目、Facebookやホームページを少し私の方で手を加えたいと思っておりましたが、結果、残念ながらひとつも行えませんでした。申し訳ございません。

日本のロータリー創始者であり、例会は人生修養の場であると示唆された米山梅吉さんも、若い時に、アメリカ行きを決意され、その地で法学を学び8年間の苦学の末、帰国。英語力も身に着けた新しい経験をされ、銀行マンになってから金融を勉強したとされています。そして47歳のときに『新隠居論』を発表「若い人に仕事を譲って公共の事業について欲しい」と考えを呼び掛けたそうです。人望と人徳があればこそ米山記念奨学会の冠名が受けられたのでしょう。

わたくしは、42歳。人生修養の場の教えも含め40代を全力で走りたいと思っております。

皆様との出会いとご親切にいただいた方々には、心より深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。



会員拡大委員長 木村龍次

本年度は、私の他、渡邊岳人副委員長、花澤誠一郎副委員長、川島教昭委員、谷中功亨委員、宮間大輔委員の5名で会員増強委員会の活動を行いました。

本年度前半は4名の入会者があり、順調な会員増加がなされましたが、年度前半終了日である12月31日をもって、5名もの退会者が出ました。

